

介護・医療・年金・平和!! おろそかに時間を使うまい



ダイビング・キャッチ 撮影：田辺典男会員 P.4 参照

退職者

こだま会報

NO.54



国民はいま、現在の政治的、経済的閉塞状況を打開し、国民生活を立て直してほしいと切実に願っています。小泉首相が「聖域なき構造改革」を唱えた時、国民が強い期待を寄せたのも、そのような事情からです。しかし、小泉内閣は本当に国民の期待に応える政治を行ってくれるのでしょうか。

小泉首相は、かねがね、「構造改革には痛みが伴う」ことを表明してきました。小泉内閣は、その「約束」通り、最近になって、国民が痛みを感ずる政策を

次から次へと打ち出しています。それは「激痛」と言ってもいいものです。

二、三申し上げてみましょう。厚生労働省は、来年度から老人医療制度の対象年齢を現行の七〇歳以上から七五歳以上に引き上げようとしています。これが実施されますと、七〇歳から七四歳までの高齢者は、加入している健康保険によって違いませんが、医療機関の窓口で支払う医療費は一割負担時の二倍乃至三倍になります。

なお、厚生労働省は、サラリーマ

「痛み」を跳ね返そう

ン本人が医療機関の窓口で支払う患者負担についても、〇二年度から、現在の二割を一律三割に引き上げる方針です。サラリーマンの健康保険は、九七年に一割から二割に増額されたばかりです。それからまだ何年も経っていないのに今度は三割だといふのです。

また、小泉内閣の「構造改革」に後押しされて、電機や自動車産業で大規模な首切りが計画されています。完全失業率が五%に達している時、企業の社会的責任を放棄するこのよ

うなやり方に
対し、小泉首相はこれを是認する発言を繰り返すだけです。

私たちは、痛みが一時的なもので、その先に希望が見出せるのであれば、いつときの我慢を惜しむものではありません。しかし、小泉首相は前途の展望について何一つ具体的に語っていません。私たちはこのような痛みだけを押しつける政策を黙過しているわけにはいきません。現役の労働者と力を合わせて、「痛み」を跳ね返していこうではありませんか。

(生方武羅夫)

パソコンは生活必需品か

パソコンのスイッチを入れ、インターネットに接続して、キーワードを「神奈川県職員労働組合」で検索すると県職労のホームページが表示されます。更に、そのホームページからは主な日程とか行事案内などに接続(リンク)し、県職労のあらまが見られます。毎月八百件ほどの訪問者があります。

こだま会でもホームページを作って、趣味の会の予定案内などを載せたらどうだろうか、というのが話の始まりです。三ヶ月ごとの会報発行のせいで、趣味の会の予告案内が早すぎたり遅すぎたりして、適時にお知らせすることができないので苦勞しているのです。

こだま会の会員のパソコン普及率がどのくらいなのか、なかなか予想出来ませんが、世帯数で二分の一は有るだろうから、子供や孫の手を借りれば結構アクセスしてもらえるのではないのでしょうか。

さて、こだま会会員でパソコンに関心を持っている人は沢山いるようですが、なかなか踏み切りがつかないで買いか買わないか迷っている人も多いようです。使えないから買わないとか、覚えるのが面倒とか、無

くても困らないとか、まだ生活必需品として認めていないわけですね。

最近のパソコンは、機械の性能もソフトの性能も向上して大変使いやすくなりました。4歳の孫にマウスの使い方を教えたなら、すぐ覚えて、パソコンでゲームしています。興味・好奇心さえあれば誰でもパソコンの世界に入れます。

大人の場合は、パソコンに沢山の機能があることを知っていて、それを一度に覚えようとするので、やり切れないとか、続けられないことになっていくような気がします。初めはマウスの使い方のみ覚えてゲームをやるか、さしあたりワープロとして使い始めてもよいでしょう。

外国に子供を留学させた親が、必要に迫られて、Eメールのやり方をすぐに覚えて、毎日やり取りしています。こんな場合は生活必需品ですね。



県職労ホームページ

アドレス:

<http://www.kensyokurou.ne.jp/>

Eメール:

kanagawa@kensyokurou.ne.jp

(采山東伊)

湘南地域で

「談話室」を開きます

今年度の「談話室」の第一弾は湘南地域で開催します。県職労湘南支部と共催、OB、現職ともに交流しあつて医療・介護など生活のこと、自爆テロと報復、その他耳寄りな話など語り合う一刻を過ごしませんか。出席・問合せはこだま会事務局(TEL045-212-3179)へどうぞ。

とき 11月12日(月) 14時~16時
ところ 県平塚合同庁舎3階会議室
交通 平塚駅下車徒歩13分

★せいかつ短信は、情報の豊庫

みなさん、会報53号のせいかつ短信はいかがでしたか。短信を寄せて頂いた方、本当にありがとうございます。

みなさんの声は、こだま会にとって大事な情報源です。行事や会報の企画、さらには会の運営は短信を依りどころとした方向で進められています。

★名簿を活用しましょう

新しい会員名簿をお手元にお届けしました。今後、オリンピックサイクルで4年毎に、その中間2年目に追加・訂正版の刊行を計画しています。「趣味・特技」の欄を新しく設けました。これは総会出欠ハガキで寄せられたそれぞれの趣味を記入させ

事務局だより

★困った時には相談を
て頂きました。趣味のお相手を探したり、その途の指導者を見つけたり、大いに使ってください。

この原稿を書いている時、またまた厚生労働省が医療制度の改悪を発表しました。

“健康保険本人負担を一部から三割に、老人医療の対象を「70才から75才に」引き上げる”

9月19日に開かれた幹事会でもこの制度改悪に何もしないでよいのか、国会への要求署名などの取り組みを、という意見も出て、今後の課題としています。本年度も、様々な改悪にもなつて生じる問題でみなさんが困った時には、年金・法律・介護などの相談を受け、信頼できる専門家への紹介をしています。

会 員 紹 介

マタニティスイミング・ヨーガ

金子ナカさんの誇りと生活

県を退職して一八年になる金子さんは、助産婦の技術を活かして、退職後もいろいろ活躍されています。

“せいかつ短信”に届いたお便りに「マタニティスイミング・ヨーガの体操等」とありましたので、どんなことをするのか、お話を聞きに行ってみました。

技術を活かして

県職員としては、母子保健センター、足柄上病院、秦野精華園などで働いた後、非常勤職員として相模原保健所や海老名支所で働きました。当然のことながら、助産婦、看護婦、保健婦の免許は持っていました。退職後二年間専門学校に通ってマツサージ師の免許をとりました。

これがマタニティスイミング・ヨーガにかかわるきっかけになったともいえます。

厚木市役所から紹介があったのが昭和64年頃ですからもう一三年にもなりますが、今でも毎週月曜と木曜に近くのプールに通っています。

スイミングについては専門のトレーナーが指導するので、私は妊婦さんの健康指導とプールに入ってマツサージをします。

主にツボを押すので、妊婦さんはとても気持ちが良いらしいですが、なかなか重労働で、終わって家に帰ると横になって眠ってしまうこともあります。

それでもこの利用者はお産が軽く初産でも二〜三時間と聞いており、健やかな赤ちゃんを産み育てる手伝

いができることを誇りにしています。常に勉強も怠らず、「自然育児研究会」に入り、三ヶ月毎に各県持ち廻りで開かれる研究会に遠方まで出かけ行きます。

趣味を楽しむ

いろいろありますが、鎌倉彫はお盆を作った後、菓子器にとりかかりましたが、なかなか手間がかかるし忙しいので中断してしまいました。

足柄上病院の課長に誘われて始めた詩吟はもう一五〜六年になるでしょう。毎月一回横浜の反町まで練習に行き、年に一回先生が住まわれている真鶴町の町民センターで発表会があります。今は明治天皇の御製などを習っています。(相模宝船吟詠会、二〇年間)

一番楽しいのはハーモニカで毎月三回火曜日に厚木市の公民館で習っています。健康に良いと思って始めました。おぼろ月夜、浜千鳥、バラが咲いた等、むずかしいので若い人に負けています。

有機農法で野菜作り

家の廻りに農地を沢山持つているので、野菜は全部自家製です。

肥料は残飯と近所の農家から貰ってくる豚のふん尿などを使います。ゴーヤ、しょうが、トマト、なす、

きゅうり、さつまいも、落花生などなど。ただカラスが食べに来るので網を張るのが大変です。

収穫を友達や近所に住む姉妹に届けるととても美味しいと喜ばれます。

近くに国体の会場となった市営の体育場ができて、夜も使うため照明の影響を心配しましたが、九時に消灯されるので大丈夫のようです。今ではいい散歩場となりました。

自然環境に恵まれて

散歩すると小鮎川では鮎の泳ぐのが見られ、まだ田んぼもかなり残っているし、ゴルフ場もあって空気の良いところです。

庭先では今年、一本の百合に花が五〇位ついたり、埋めてあった細い鉄パイプからひょっこり蔦が芽を出したり、蟬の脱皮が見られたりと面白いことがいろいろあります。

土を掘り起こすとみみずが数えきれぬ程うごめいていますが大切に飼うよう心掛けております。むかで・蛇も縁の下に居りますが網を張ってしまいました。

と、楽しそうに話される金子さんでした。まだまだお元気で活躍されることでしょう。

(新井)



楽しい趣味の会

趣味の会は、長生きの散歩道

ご一緒に歩きましょう!!

部会の申込みは、

葉書で事務局へ

歴史教室

曾我兄弟の足跡を訪ねて

—— 秋季歴史散策 ——

秋雨前線の晴れ間の9月14日(金)、梅の里の館跡と二宮町を尋ねて」に参加した。中村猪一郎先生以下総勢16名(女10名、男6名)

11時前に下曾我駅に到着。早速、曾我神社に。県道ぞいの鳥居をくぐり、ゆるやかなコンクリート道の参道が続く高台に「神社」は鎮座していた。城前寺もそうだが、当時の神社仏閣は高台にあり、水田の水利権を握っていた。

静かな広い境内は、上代の蘇我部(宗我→曾我→蘇我)の存在を明示しているかの趣であった。

次に神社の東隣りの城前寺へ。曾我兄弟の墓があり、5月28日(兄弟の討入りの日)の傘焼きで有名である寺の裏手の墳丘に祐信夫妻と兄弟の墓がある。全国に数ある兄弟の墓で

本命といわれている。他は、供養墓である。

昼食を駅前の「梅の里センター」

でとり、二宮に移動。二宮は、私の地元。静かな裏道を取り、知足寺に。吾妻山の麓浄土宗の知足寺は、静かなたたずまいであった。墓地の奥まったところに、兄弟は、異父姉(二宮朝忠室)と言いつと共に手厚く葬られていた。生前、兄弟が姉を慕った想いが感ぜられた墓参であった。

駅に戻る道すがら、徳富蘇峰記念館とガラスのうさぎ像を観て、4時すぎ二宮駅前で解散となった。中村先生の熱弁に楽しんだ散策でした。(湯川 勉)

☆相模原の野鳥たち☆

田辺典男さんの写真展開催中

巻頭を飾る写真を提供して下さいました田辺さんの写真展。会報では残念ながら白黒ですが、美しいカラーの迫力ある野鳥の姿が楽しめます。

とき 10月28日(日)まで

ところ 県立相模原公園内

かながわグリーンハウス2階
TEL 042 (777) 6816

交通 小田急相模大野駅下車

女子美行バス女子美前下車

年金情報

年金改悪の動き

小泉内閣が来年度に向けて準備している医療保険制度の改悪は、私たちが高齢者の生活にとって大きな打撃になります。「医療改悪阻止」の運動が当面の私たちの課題ですが、「年金」についても着々と次の改悪が準備されているのを見逃すことはできません。昨年の改悪で六五歳以上の賃金スライドが凍結され年金額アップが見送られました。現役世代にとっては支給開始年齢の引上げ、年金額の引下げなどときびしく、将来の生活不安が高まっています。『厚生労働白書』では高齢者の所得・資産や生活水準は現役世代に遜色ないという「高齢者金持ち論」を強調しています。

次の改悪の狙いは今まで比較的、

イラスト版

ひざの痛み

こうすれば楽になる

読む

講談社/2001・9・10刊
定価千二百円(税別)

黒沢 尚監修

「ひざが痛む」の多くは変形性膝関節症です。通院ではなく自宅でセルフコントロールの方法が、絵

手をつけてこなかった受給者の年金額をどのようにして減らすかにあります。一〇月からの介護保険料の年金控除額の引上げは紛れもない年金の減額です。年金課税の見直しも浮上しています。小泉内閣は昨年の国会で与野党一致で決めた基礎年金の国庫負担を二分の一に引き上げることにへの具体的な検討もありません、保険料引上げの凍結を解除しようとしています。このまま小泉内閣の「構造改革」とやたらにまかせては年金の改善はありません。五五万人をこえる無年金者や二千万人もいる月平均五万円の国民年金受給者の生活実態に目をむけ、年金を高齢者の生活を支える所得保障にすることです。国の責任で誰もが生活できる最低の年金を保障する「最低保障年金制度」の創設がもとめられています。(山口順久)

入りで分り易く述べてあります。

監修者は順天堂大整形外科教授。



予告!! 予告!! 予告!!

☆こだま会スキー旅行のお誘い☆

2002年の1・2月に3泊4日で「ダイアモンドダスト」の舞う、北海道フラノスキー旅行を計画しています。来シーズンの料金は未定ですが、2001年1月に有志18名で下見に行っていました。その時の概要は次の如くです。

宿泊 ニューフラノホテル

3泊4日朝3食、夕3食
費用 2名一室 五一、九〇〇円
3名一室 四六、九〇〇円

往復の飛行機代、スキー
保険を含む

来シーズンは「新富良野プリンスホテル」3泊4日のコースも企画に入れています。この場合の費用は2001年で、2名一室八二、四〇〇円、3名一室七〇、四〇〇円でした。

旅行会社から2002年の価格表が届いたら、早速資料を作成します。参加希望の方は、こだま会事務局あて、返信用封筒に㊟住所・氏名を記入し80円切手を貼って送って下さい。

なお、先着順で定員になり次第メ切りです。問合せは045-212-317九こだま会事務局まで。

(叶井)

※草木染め1日教室※

とき 10月26日(金)10時～16時
ところ ことぶき荘3階会議室

小田急線本厚木駅東口
駅下車徒歩3分、厚木市
総合福祉会館となり。

材料費 ハンカチ3枚で千円
作成 ①輪ゴムか 割り箸染め

②絞り染め
③手書きか 型染め

定員 10名程度

参加希望の方はハガキ(〒243-0004厚木市水引1-11-2)かFAX(046-221-1834)川井弘次あて申込んで下さい。先着順です。

2001手作り文化祭ご参加を!!

自治労連神奈川退職者会恒例のお祭りが巡ってきました。出演・出品をお願いします。また当日は誘いあつてご参加下さい。

とき 11月17日(土)

10時～16時

ところ 横浜市会館

桜木町駅徒歩5分

また、当日お手伝いをしたいと思う方は事前にこだま会事務局(Tel 045-212-317九)までご一報下さい。

▼食文化を楽しむ会

師走の一日、体によい葉膳料理とお茶を楽しみませんか。

とき 12月6日(木)11時～15時
ところ 横浜市健康福祉センター

9階料理実習室(桜木町駅前)

参加費 二、〇〇〇円

定員 18名

講師 上野多恵子会員、鈴木志げ子会員

希望者はこだま会事務局あて、はがきか電話でお申し込みください。

▼歴史教室(講義)

とき 11月5日(月)14時～16時

ところ 県職労本部1階会議室

テーマ 小栗上野介と横須賀

講師 中村猪一郎会員

▼第二回楽しい俳句教室

とき 11月15日(木) 13時30分～

12月20日(木)

ところ 県職労本部3階こだま会

申込み こだま会事務局

Tel 045-212-317九

体験学習を歓迎します。どうぞ飛び入りして下さい。

「こだま俳壇」

小川 水草

電柱に農家売るビラ曼珠沙華
ひとり住むかやぶき農家秋ざくら

村出役年金かこつ宵まつり

住まぬ家に夕霧訪うて峽深し
萱の里ガイドの役を貰いけり

須藤 伸成

処暑の土手おほかた犬の夕散歩

すぐ溜る机上の埃秋暑し

尻餅について太りし秋なすび

小川 達子

ひまわりの垣根見下ろす背丈かな

揚花火映せるビルの窓ガラス

幼な子に遊ばれている白日傘

▼お詫びと訂正▲

53号9頁の俳壇で二ヶ所の誤植を見落としてしました。お詫びして次のように訂正いたします。

二行目

足早に揺れて薄暑の胸の線

最後から二行目

ながむしの水を渡りしこと忘る



老年期を迎えると耐久力は衰え、健康の維持や管理には大変苦労が多くなります。できるだけ体力と持久力を保ちながら健康で元気に長生きすることに心を配ることになります。日常的には適度な運動と、食事への配慮、それに加えて精神的安定も非常に大事な要素となるでしょう。

戦後、農村と農地の疲弊

そこで今回は食べ物と農地の安全性、特に農畜産物について大まかに記してみます。どなたも各種のマスコミなどでご存知の方も多いと思いますが、特に戦後の我が国の農業は、政治的に農畜産物の食糧輸入が一貫して次々に拡大され、日本の生産物の販売価格は暴落を続け、生産農家の経営収支と生計は破綻に追い込まれ続けてきました。

こうして農村の労働力は都市を中心とした他産業へと吸収される仕組みにとり込まれ、農地は「列島改造論」により吸収破壊され農村と農地は疲弊して行きました。

減反政策や外国産の輸入

お米でみると1970年代の前半から作付けの減反政策が強制され、毎年拡大されてゆき、現在では四国の島の面積程の水田が強制減反されています。政府は国民の米の消費量が減ったから生産を押さえると言うのですが、戦後の学校給食がアメリカ

カの余剰小麦のパン食にさせられ、「コメを食うと馬鹿になる」などのご用学者に言わせ、パン食を横行させました。それで日本の風土に合った古来からの栄養価の高い米の消費が減らされました。さらには減反政策の上に米の輸入まで拡大してきています。中国では日本を中心に輸出するための米を作る大面積の開田が行われつつあると言われています。

米以外に早くからオレンジやグレープフルーツなどの果物の輸入自由化の拡大により、日本のミカン農

食と健康

特に農畜生産物の安全性を中心に

小野 正良

家を破綻させました。(減反も強制された) さらにここ数年來、日本の大商社や食品企業が、中国や韓国など多くの外国に、野菜を中心に種苗や肥料などの資材、技術者まで送り込んで大規模な生産をし、非常に安値で日本に輸出させてきており、日本の生産農家の経営を圧迫し、生活の破綻に脅かされていることはマスコミなどによりご存知だと思います。

安全性をみる

消費者の生活も、長い間の悪政の極みから苦しい状況に追い込まれて

いるため、少しでも安価な農産物が入手できれば家計も助かると考える人も多いと思います。

しかし、大きな問題として「安全性」はどうか。例えばアメリカを中心に大量に輸入されている大豆やトウモロコシなどに除草剤に強い「遺伝子組換え」の農産物には、これを食べると呼吸不全など健康を脅かすアレルギー性があると言う問題があります。

また多くの諸外国から、玉ネギ、カボチャ、ブロッコリー、アスパラガス、トマト、ピーマンなど20余種の野菜が輸入されていますが、日本ではすでに製造も禁止されている危険性の高い農薬が、諸外国ではまだ多く使用されており、これらの野菜から県民連の分析センターの検査などからもD D TやB H C、有機燐系の発ガン性のあるものや神経を侵す農薬などが検出されています。

また、因みにマクドナルド社のハンバーガーの食材は100%が輸入品とか。日本の有名な製パン大企業製品のドーナツ、ケーキ、パンなどから農薬が検出(農民連分析センター)されているとのこと。

さらにコンビニ弁当は、ほぼ全てが輸入食材で、しかもどっぶりの添加物(発ガン性、変移原生など)漬けたか。

農業に大きな口マンを求めてこのような状況から、或る消費者へのアンケートでは、価格は多少高くても、危険性の高い輸入農畜産物より、安全で、味のよい、新鮮な国内産のものを食べたいとの回答が80%余りあったと言うことです。

この消費者の求める安全な農畜産物を提供するには、国が農民にも消費者にも役立たない大企業を潤す、国民には無益な公共事業を即刻とり止めさせ、先進諸国では最低といわれる農業予算を増やし、農家が安心して再生産と生活ができる基盤を築くことが重要です。それが消費者が安心できることにも結びつくものと思います。

列島改造と大企業本位の国政により、国土や自然が大きく破壊されて大災害も増えました。これからは真面目に働く国民のための国土づくりを、本来的に美しい四季や自然風土に恵まれた日本国土を再生し、大切に守って農地と農業も再生させ、安心して住める国と社会を築きたいものです。

老いても大きな口マンをもって頑張らしましょう。

☆医療にかかるお金

保険証で受けられる保険診療Aとそうでない、いわゆる保険外Bがある。Aは保険診療と認められた治療に関わるもので、注射、処置、手術、検査、入院料などがあり、Bの代表的なものは差額ベッド代である。そして、Bのお金は

お年寄りの高額医療費と
委任払い制度

保険情報

+a) 円

保険診療の自己負担aは、・組合健保や公務員の共済などは本人はAの二割、家族は外来二割、入院は三割、・国民健康保険はAの三割、・退職者医療制度の本人は二割、・老人医療制度(七〇才以上)の本人は

全額自己負担、何の援護制度も適用されない。Aについては、その九割七割を保険者と公費でまかなわれ、一〜三割が自己負担aとなる。医療費援護制度はこの自己負担aの部分について適用される。Bについては病院それぞれにより決められている。

☆医療機関窓口で支払うお金は(B

一割となっている。ただし老人医療には一ヶ月ごとに上限があり、病床数二〇〇床以下のところは三、〇〇〇円、二〇〇床以上では五、〇〇〇円が上限とされており、診療所では、一割負担でなく通院一回につき八〇〇円(月四回まで)としている所が多い。

☆高額療養費

保険の自己負担分aは一ヶ月を合計して高額療養費に該当した場合、その部分が窓口で支払った二〜三ヶ月後に保険者から給付される(戻ってくる)。額は収入などにより異なる。また、どの場合でも入院・給食費(七八〇円×日数)は高額療養費が適用されない。

・低所得者(住民税非課税所帯)：

aが三五、四〇〇円以上になった場合、その部分が高額療養費として戻る。その結果として自己負担額の上限は三五、四〇〇円となる。

・一般：aが六三、六〇〇円以上となった場合、その越えた部分が高額療養費として給付される。しかし、さらにaが三一八、〇〇〇円を越えた場合はその越えた額の百分を自己負担とする。従って自己負担限度額はaが三一八、〇〇〇円までは六三、六〇〇円となり、aが三一八、〇〇〇円以上の場合

は六三、六〇〇円プラス越えた分の百分となる。

・上位所得者(標準報酬五六万円以上。国保では市町村税の基礎となる総所得金額がおよそ七〇〇万円以上)：前述の一般の「六三、六〇〇円」の部分が二二、八〇〇円、「三一八、〇〇〇円」の部分が六〇九、〇〇〇円となる。

☆委任払い

高額療養費はいずれ給付される、戻ってくるとしても、窓口でその分を支払うとなると、その負担は厳しい場合が当然生じてくる。その場合自治体などは、高額療養費を貸し付けたり、病院の窓口で支払わないで給付を直接病院に対して行う委任払い制度をもっている。これらは住んでいる市町村によって異なるので、まず病院の窓口で問い合わせをしてほしい。

九月六日の各新聞のトップは「健保本人三割に」だった。小泉内閣改革の具体化が始まっている。老人医療は七五才からとも。一兆円の自然増が見込まれる社会保障関係費を三千億円削減するというのだから、「医療改善を許すな」の声を大きくする運動をしなければ命も健康も守れない現在である。(山本文子)

一人ぼっちの高齢者をなくそう
自治体の高齢者施策を
利用しよう

ひとり暮らしの高齢者(満65才以上の単身生活者)が増えています。これらの人に向けての自治体の施策は案外知られていません。

私の住む厚木市で市発行の『福祉の概要』を調べたところ、登録さればつぎのような施策を利用できることが解りました。自治体によって違いがあるでしょうから、確かめた上で利用できるものは利用しましょう。また、一人ぼっちの方に利用をすすめてみましょう。

◇火災報知機・自動消火器の給付：費用の10%負担。ただし、非課税世帯と生活保護世帯は無料。

◇安否確認の電話貸与：無料、基本料金と六百円までが市の負担。

◇緊急通報システム機器の貸与：通話料金は本人負担。

◇寝具乾燥消毒サービス：敷布団・掛布団・毛布を年二回まで無料。

◇理容・美容助成券の交付：月一枚、無料。

◇はり・きゅう・マッサージ施術費助成：75才以上の高齢者に年七枚交付。

◇その他：愛の訪問(乳酸菌飲料の宅配)、誕生プレゼント、配食サービス(一食当たり四百円)など。(川井弘次)

高齢者運動

元気をもらった!!

第15回日本高齢者大会



21世紀初のこの大会は、9月16日～17日に大阪で開かれました。高齢者を苦しめる諸改善―医療・福祉・介護・年金反対の大会をくりあげ、大会のメイン・テーマでした。一日目の全体会には六、〇四三名、二日目の分科会を含めると九千人余の老いも若きもの人びとが結集しました。

全体会は相撲の大阪場所が開かれる大阪府立体育館、大入りをし、のぎ四方満席でステージを後から見の人たちもいました。記念講演は「元氣なお芝居 笑いのお芝居」狂言役者の茂山千之丞さんでした。狂言の元氣と笑いに満ちた独自性について語られました。桂文福一座の大阪落語など、会場を笑いに包みました。

「輝きのある高齢社会をめざす10ヶ年行動指針」医療制度と高齢者医療の大改善に反対する決議」が提案されて、それぞれ承認・決議されました。いずれも長寿革命―高齢者の権利と尊厳を守り輝きのある生活を求め、そして実践に踏み出すものです。

27の分科会四コースの学習講座が設けられていて、私は16日夜の学習

講座篠崎次男氏の「医療・保健・介護・年金をめぐる情勢と運動課題」に出席しました。各自治体や介護機関に対して疑問や要望をつきつけ改善させていく実践の積み重ねが大事で、中央交渉をより力強くしていくと強調されました。

17日は移動分科会「京都史跡めぐりと山宜」に参加、宇治に行きました。当初、平和ミュージアムに行くというので選んだのですが、月曜休館これが史跡めぐりに変更。山宜こと山本宜治は、小説の西口克巳「山宜」映画の山本薩夫「武器なき斗い」で知っている方も多いと思います。生物学者・性教育のバイオニアであると同時に、国會議員として平和と民主主義のために民衆とともに闘いテロに倒れた方です。生家「花やしき」やお墓を訪れて、志の高さに改めて打たれました。土蔵が記念の資料館として公開されていましたが、戦時中隠されて保存されたものでもっと保存に適した記念館にしたいなと思いました。

今度の大会は大阪らしさに溢れており、元氣と笑いを貰って、勇気が湧きおこるものでした。

次の16回大会は東京で開かれます。近いですから、みなさん一緒に参加しましょう。

(木村)

全国自治体退職者会連絡会

第四回総会

自治労連第二三回定期大会が八月二七日～二九日にわたって、北九州市小倉北区のホテルで開催、「暮らしと地域を破壊する小泉改革ストッパ」の大会スローガンのもと、全国から約一千名集まりました。

全国自治体退職者会は、その事前会議の一環として、九都府県から五名の参加で開催されました。

記念講演

「社会保障と自治体リストラ」

講師 吉田 仁氏(自治労連中央執行委員)がありました。

総会 この一年間の活動・決算報告等がなされ、二〇〇一年度の活動方針案「憲法を守り、退職者・高齢者が健康・平和で豊かな生活ができる社会保障制度の確立を目的とする」を基本的に、運動の進め方、当面の要求、具体的などりくみ、予算等が提案され全会一致で採決されました。

役員の選出では殆どの方が再任されました。私達こだま会からは加藤

事務局長が連絡会の事務局次長に再任されましたので、今年度の活動について会員の皆様のご協力をお願いいたします。

(明田)

編集 後記

・爽やかな秋晴れ、洗濯を終えゆつたりした気分になりたい、が世上は騒然、気分は吹飛んでしまう。

・同時多発テロ、犠牲者に哀悼……テロと報復の連鎖は戦争への道だ。

・日本でも狂牛病、厚生労働省の対応はエイズの二の舞のよう。たんに牛肉を食べるのを止めるのではなく、食品の安全性を考え、安心できる食

材で、安心して食事をしたい。

・自治労が団体生命保険のバックマージンを横領か。労働組合までも腐敗の構造に汚染したことは許せない。自治労連でないことに注意を。

・いろいろあるが、食欲の秋、食べ過ぎにご用心、健康第一に!! (木村)

編集・発行
県職労退職者こだま会
発行人 鈴木志げ子
発行日 2001.10.15

No.54

〒231-0023
横浜市中区山下町57-1
神奈川県職労内
TEL 045-212-3179(代表)